

## パラ聖火、各地で採火開始



### 県内41市町 16日に東京へ

東京パラリンピックの聖火の「採火式」が12日、東京都などを除く43道府県の市町村で始まった。兵庫県内では16日までに37市町で実施され、分火も含めた全41市町の火が同日、神戸総合運動公園陸上競技場（神戸市須磨区）に集結。「兵庫県の火」として一つになり、東京に送り出される。芦屋市では市立精道小学校で採火式が行われた。県

立芦屋高校の書道部員らが縦4段、横8段の紙に「共生のまち芦屋 あしやの火 未来へつなごう」と天書するパフォーマンスを披露。続いて伊藤舞市長らが火起こし器で木をこすり合わせると、「ついた、ついた」と歓声が響いた。たき火台に移した種火の上には、市民から募った「みんなが生きていける街」など共生社会の実現を願う

芦屋市立精道小学校で開かれた採火式。市民から募ったメッセージの紙などを燃やした火がランタンに移された。12日午後、芦屋市精道町（撮影・秋山亮太）

メッセージを墨書した紙片を投入。大きくなった炎をランタンに採火した。

芦屋高書道部長の野妻綾さん(17)は「コロナ禍で書道ができない時期もあった。3年間の思いを込めて書いた。自分たちの火が届いてパラリンピックが成功してほしい」と笑顔を見せた。

兵庫県などによると、12日は県内15市町で採火式が行われた。西脇市など6市町は太陽光を使う予定だったが、悪天候のため事前に採火した種火を使うなどしたという。

(村上貴浩、古根川淳也)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①何の採火式が始まりましたか。

の採火式

②兵庫県で採火された火は、どこに集められどこへ送られますか。

③芦屋市ではどのように採火が行われましたか。

④兵庫県の各市町で行われた採火式を調べてみよう。